

令和5年度 多摩市立瓜生小・中学校 学校評価書

学校教育目標	
人権尊重を基調とし、主体的に学び、人間性豊かで、心身ともに健康でたくましく生きる児童の育成 すすんで学ぶ子 思いやりのある子 きたえる子	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
ともに励み、ともに伸びることのできる「学ぶ喜びのある学校」	
目指す子供像	目指す教師像
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学んだ知識を生きる知恵として活用する児童 ・優しさと寛容の心を持ち、互いの人権を尊重する児童 ・健康な心と体を持ち、粘り強くやり遂げる児童 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かる喜び、考える喜びのある授業を実践する教師 ・人とかかわる喜びのある活動を創造する教師 ・粘り強く児童に寄り添い、励ますことのできる教師

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的に課題に取り組む態度と問題を解決する能力の向上 ・基礎的・基本的な学力の定着 			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
総合的な学習の時間で探究的な学習を行い、ESDの充実を図る。	4	3年生から6年生までの指導計画を概ね作成し、探究的な学習を充実させることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事実を調べる活動に留まり、探究的な学習には至っていないように感じる。 ・8割達成には、身に付けた技能の活用や思考を促す問いかけなど工夫が必要。 ・辞書やノートの活用の域に留まっている。発達段階に応じた技能向上が必要。手書きの良さも大切にしたい。
東京ベーシック・ドリルを活用し、基礎・基本を定着させ、診断シートの正答率8割をめざす。	2	12月実施の正答率(%)は、2年86.5、3年67.0、4年71.5、5年79.2、6年67.3となった。	B	
ICT端末を活用し、個別最適な学びの場を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成する。	3	機器の操作などの技能は身に付いている。意見交流や思考の深まりに繋げることが課題である。	A	
評価のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を柱とした指導計画が概ね整った。今後は、「探究活動」のイメージを学校だけでなく、児童、保護者、地域とも共有しながら充実を図る必要がある。 ・既習事項を活用した課題解決という授業の流れを充実させるための指標として診断シートの正答率の重要性について、児童・保護者の理解を図る。 ・題材や発達段階に応じて、ICT 端末と手書きの学びを使い分けたり、児童の思考等を深めるツールの指導を計画的に進めたりする必要がある。 			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての児童に居場所があり、楽しく通える雰囲気の醸成 ・いじめを「しない」「させない」「許さない」意識の向上 ・他者の気持ちを想像できる思いやりの気持ちの涵養 			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
いじめ防止基本方針を確実に実施し、重大事態の発生を防止する。	4	いじめ防止委員会、いじめアンケートを確実に実施し、重大事態の発生を抑えることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大きないじめはなかったが、センシティブな子供が増えているように感じる。更に、きめ細かく児童の様子を見守ってほしい。 ・特別活動を見直し充実させてほしい。児童の状況に応じて、見直しを進めた学校の考え方も理解できる。
個に応じた指導と関連機関との連携を通し、登校の困難な児童に学ぶ場を提供する。	3	不登校及び不登校傾向児童の発生が増えている。	B	
特別活動の充実を図り、ともに励み、ともに学ぶ気持ちを涵養する。	3	児童数が減少し、活動が児童の負担増に繋がる傾向がある。新しい方向性を考える必要がある。	A	
評価のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校については、児童、保護者の考え方や感じ方が多様化しており、個に応じた対応は、益々難しくなっている。組織として情報を共有しながら関係機関とも連携し、可能な限り寄り添って対応する必要がある。 ・特別活動、とりわけ行事については、指導時間の確保、児童数の減少、児童への負担、教員の働き方改革等様々な視点から検討する必要がある。豊かな心の育成に向けて様々な工夫をしていきたい。 			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体力や健康に関心を持ち、自らを高めようとする意識の向上 ・目標に向かい粘り強く最後までやり切ろうとする意識と実践力の向上 			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
体力テストの結果を分析し、学校・学年・個人の目標を決め、体力向上に取り組む。	2	持久力や体幹の強さを必要とする体力の向上が進まなかった。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・習い事の有無など家庭での生活と体力の相関を分析し、個に応じたメニューを作ってはどうか。 ・近隣の大学と連携し、楽しく専門的な体力向上のプログラムを実施できないか。 ・教員の働きかけで粘り強く取り組めるということは、児童と教員の関係が良好ということ。
わくわくチャレンジ、縄跳び週間、ペースランニング等を通し、運動習慣の定着に取り組む。	3	前向きに取り組む児童と取り組めない児童の差が大きいことが課題である。	B	
全教育活動を通して、粘り強くやり抜く経験を積ませる。	3	教員が粘り強く指導することで、児童の力が徐々に伸びている姿が見られた。	C	
評価のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上への取り組みを工夫し、充実させていく。 ・一つのことを最後までやりきる経験を積み、自己肯定感を高めることで、粘り強さを身に付けさせていくようにする。 			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	・コミュニティ・スクールに移行し、保護者・地域の理解を深めるを通し、地域に開かれ、地域と共にある学校づくりに取り組む。		
評価項目	自己評価		学校関係者評価
	評語	現状の分析と改善策	評語 学校運営協議会委員の意見
学校運営協議会の実施を年5回に増やし、教育活動への理解を更に深める。	4	実施回数を増やしたことで、地域や保護者との話し合いを深める時間を確保することができた。	A ・回数が増え、学校の様子が分かり、大変良かった。 ・学校の報告が長く、意見交換の時間が短い。欠席者にも意見を求めるなど多様な機会を確保してほしい。
地域学校協働本部活動委員と連携し、地域の教育力を生かした教育を実践する。	4	生活科の商店街での体験や総合的な学習の時間の自然観察において充実を図ることができた。	A ・LINE の通知が多く、埋もれがちになる。 ・タイミングを考えながら、きめ細かく、配信してほしい。
学校から保護者・地域への通知や保護者からの提出物について ICT の活用を進める。	4	学校からの連絡は、殆ど LINE の配信で行った。一方、保護者からの提出物の回収が難しくなった。	B
評価のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の回数を増やしたことで、地域、保護者への理解を深めることができた。今後、学校からの報告を簡潔にし、協議の時間の確保に努める。 ・地域学校協働本部活動委員の活躍で地域での学習が充実した。一方で、一人の負担の大きさ、後継者の問題など持続可能な取組にすることが課題である。 ・ICT の活用については、効果的な配信について工夫する。 		

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

<p>○教科担任制を5・6年生で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の指導の充実と複数の教員による児童の見取りによる生活指導の充実 ・指導体制 <ul style="list-style-type: none"> 担任の授業 国語、道徳、学活、総合、外国語 教科担任での授業 社会、家庭、体育 専科の授業 理科（3～6年）、音楽、図工（全学年） 少人数指導 算数+該当学年の担任（3年以上） <p>○算数における既習事項の確実な定着と課題解決の力の育成を図る。</p> <p>校内研究において、既習事項を活用した課題解決学習の授業方法を研究する。その中で、既習事項の確実な定着も図る。</p> <p>○不登校児童への対応の充実を図る。</p> <p>児童が安心できる場を作る…学級経営の充実、「ほっとるうむ」の有効な活用、不登校児童への支援体制の充実</p> <p>関係機関との連携強化………ゆうかり教室、教育センター、SSW</p>

以上のとおり報告いたします。

令和6年3月22日

多摩市立瓜生小学校 校長 水野 裕 司



令和5年度 学校評価書



多摩市立瓜生小学校